

英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」導入の  
見送りについて

【会長コメント】

令和元年 11 月 1 日  
一般社団法人 国立大学協会  
会長 永田 恭介

この度、萩生田文部科学大臣から、2020年度からの英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りについて、受験生の経済的な公平性の確保等、その環境が整わないとして2024年度からの導入に向けて延期が発表されました。国立大学協会としては、これまで受験生の経済的な公平性の担保について直接文部科学省にもお願いして参りましたし、文部科学省も改善に向けて活動されていたと承知していたところであり、残念であるとともに驚きをもって受けとめております。

既に、各国立大学ではその活用に向けて準備を進めてきたところであり、活用を前提に入学試験の内容についても検討が進められてきたところですが、今回の発表を受けて、既に公表している2年前予告の見直しをせざるを得なくなることから、各大学においては迅速な対応をしなければなりません。

国立大学協会としては、高等学校の学習指導要領に沿って英語4技能について入学者選抜試験において適切に評価することは重要であるとの認識は変わることはありません。

今後、大臣の下に検討委員会が設置される方針と聞いていますが、文部科学省においては、今後に向け十分な検討をお願いする次第です。また、今回の措置により受験生や大学、高等学校等関係者が混乱することのないよう、十分な説明と対応を強くお願いするところです。